

十日町市議会 会派かがやき 視察報告

■実施日：2023年7月5日 9:00～10:30

■訪問先：豊橋市こども若者総合相談支援センター「ココエール」

■対応者：豊橋市こども未来部 こども若者総合相談支援センター ココエール
副センター長 北村 充 様

■主目的：こども若者総合相談支援センターの取り組みについて

■概 要：

本施設は、児童福祉法の「子ども家庭総合支援拠点」と子ども・若者育成支援推進法の「子ども・若者総合相談センター」の二つの機能を有する複合的施設で、対象年齢が0歳から40歳未満までの子ども、若者及びその家族、子育てから自立までというまさに切れ目のない支援を実践されている。

その相談・支援の内容は、児童虐待、不登校、依存症、ヤングケアラー、ひきこもり、貧困、就労困難など多岐にわたるため、保健師、公認心理師、社会福祉士などの専門職員および、保育士OB、教員OB、看護師OB、児童相談所経験者などを配置しているほか、市からの委託を受けた民間（一般社団法人）とも連携をし総合的な体制が整えられている。また、関係機関と共同での家庭訪問なども行っている。

これら多岐にわたる機関との連携によって包括的な支援が実践され、利用者が安心して相談できる存在となっており、子供や若者が自分自身の悩みや周囲の人々との関係、学校や職場、家庭などの悩みや困難に対して適切な支援を受けることができる施設である。



説明を受けた後、当方からの質問にも答えていただいた。

◇ワンストップ施設であるが相談に来た方のいわゆる「たらいまわし」は無いのか。については、実際にはあるとの事だが「当方の職員がたらいまわしにあおう」を心がけ、しっかりと相談事を受け止め、関係機関とつなぐ、時には家庭訪問などをし相談者に向き合った対応をされていると伺った。

◇業務の一部を民間に委託されている利点。については、民間の柔軟な姿勢によりゲームやお菓子作りなど行政では思いつかない活動を幅広く積極的に支援ができています。そして行政の立場では話しにくい事も話せるし、聞きにくい相談も聞くことができています。あわせて、異動がないので長い年月にわたってフォローできるので相談者からすると安心感の醸成にもつながっていると伺った。

◇ヤングケアラーの早期発見。については、支援コーディネーターや巡回指導員を配置し、学校や関係機関との連携を進め、子どもにとって相談しやすい環境作りに取り組まれていると伺った。

■所感（まとめ）

開設以降、相談件数が増加傾向にあり解決困難な事例も多くなってきているが、行政職員では難しい案件も民間委託で柔軟かつ丁寧な対応、支援を可能としている。

また、いわゆる「たらいまわし」ではなく、ワンストップ窓口で0歳から39歳までの対応をしているので個々に寄り添った対応ができるために要支援者・相談者からの信頼も厚いものがある。

また、来所による相談支援にとどまらず、訪問支援の充実も目を見張るものがあった。これは、夏休み期間中に学生ボランティアや民生委員・児童委員が弁当を届けて子どもの見守り、生活状況の確認などを行う「宅食事業」や施設退所児にはフードバンクの食材を届ける支援、また、研修を受けたボランティアが週に1回訪問し、一緒に家事や育児をして過ごす家庭訪問型支援「ホームスタート事業」などの実践は十日町市での検討も期待される。

基礎自治体の支援は高校進学で途切れがちな傾向にあるが、定時制や通信制高校などとも連携し進路の選択肢の幅広さを認識してもらい取り組みや、不登校児への支援と高校中退予防を目的とした取り組みも重要視し対応されている点は特筆される。

ココエールの支援のありかたは児童養護施設や里親、民間民団体など多くの関係者との連携で成り立っているが人材確保や育成、専門性の維持・向上などの課題もあるとの事だが、前述のとおり十日町市でも参考になる点が多くあり、非常に有意義な視察となった。

（文責：村山達也）